



練馬区立上石神井中学校
第二学年 学年便り【第14号】
令和7年10月24日 発行
～ 天の時 地の利 人の和 ～

校外学習の事前学習に黙々と

校外学習の取り組みが始まっています。先日行ったガイダンスでは、実行委員長の2年C組只野さんが「こんな校外学習にしましょう」という素晴らしいあいさつをしていました（裏面掲載）。実行委員長があいさつしてくれたような素晴らしい行事になるよう、2年生みんなで頑張りましょう。

今は、事前学習に取り組んでいます。今回のテーマは「手書き」。川越校外学習、職場体験…など、様々な行事の事前学習やまとめの取り組みで最近ではタブレットを活用することがほとんどでした。あえて今回は、「手書き」にこだわろうということで事前学習やまとめ、実行委員会が発行するおたよりは全部手書きで取り組んでいます。様々な場面でタブレットの活用に慣れている生徒がどんな風に取り組むかと心配していましたが、みんな黙々と作業に励んでいます。手の込んでいるレイアウトをする人、得意の画力を生かす人、調べるのに時間がかかって慌てて作業を進める人…などなど。

手書きの実行委員だよりも、こう書いてありました。「まずは、手書きにしかだせない良さを考えてみながら、事前学習に取り組んでみましょう！」まさにその通り！そして、この前向きなとらえ方が素晴らしいと思いました。一人一人の作品をくっつけて完成する事前学習の作品。仕上がりを楽しみます。



道徳地区公開講座に向けて



11月8日（土）は、道徳地区公開講座があります。昨年は各クラスで『ありのボール』の授業を行いました。今年は、平和学習の一環として沈没した疎開船として有名な“対馬丸”を題材に扱います。その導入として、先日各クラスで「作品に込められたメッセージを考える」をテーマに、授業を行いました。戦争体験者である水木しげる氏ややなせたかし氏、宮崎駿氏の人生やそれぞれの作品に込められたメッセージをみんなで考えました。授業の後半では、昨年本校に自身の東京大空襲の経験などの話を講演に来てくださった加藤順康（のぶやす）さんの新聞記事を読みました。道徳地区公開講座では、それぞれが作品から何かを受け取り、感じる時間になればと思っています。

【生徒の授業の感想より】

「この間もしも戦争になったら、自分は爆弾を落とす側に回っていたかもしれない。80年間、この国でそんな人がでなくて本当によかった。」という加藤順康さんの言葉がすごく心にささりました。私もこれ以上どこの国でも戦争はしてほしくないと心から思いました。

いつもこの時代に生まれてよかったと思う。戦争なんて体験したくないし、こわい思いもしたくない。自分はまだ命の危険を感じたことがないから分からないけど、当時の人は常に命の危険を感じていただろうし、こわかったと思う。でもいつこのようなことが起きるかわからないので、日頃から後悔しないように過ごしていきたい。

校外学習実行委員長より

合唱コンクールも終わり、いよいよ校外学習が迫ってきました。合唱コンクールの発表は、どのクラスもとても素晴らしかったと思います。ですが練習を通して、それぞれのクラスで課題が浮き彫りになったと思います。今回の校外学習では、その課題を解決し、中学生として、社会に出ても通用するような言動を心がけましょう。

今回の校外学習は去年の川越校外学習とは違い、都内めぐりなので、規模が大きくなります。その分、去年よりも、各係の仕事に責任感を持って取り組みましょう。

都内巡りでは、私達が暮らしてきた東京にどんな歴史や特徴があるのかを学ぶだけではなく、みんなと協力すること、社会でも通用するマナーを身につけることも目的のひとつです。ルールやマナーを守ったうえで、思い出に残る楽しい校外学習になればと思います。

この学年の全員が校外学習が終わったときに、成長できた、と思えるような学びのある校外学習になるように、そしてこの校外学習を来年の修学旅行にも活かすことができるように、全員で頑張っていきましょう。

